

平成30年1月21日  
東京大学インド事務所

## 2017年インド10大ニュース（最終案）

### 1. インド人材獲得戦線が北東州を含むインド全国規模に拡大

当インド事務所は、5月ミャンマーと国境を接するインド北東部マニプール州インパールを初訪問して、日本留学説明会@Institute of Bioresources and Sustainable Developmentを実施しました。外務省危険情報レベル2の北東州は、8月3日両国政府間で「日印北東部開発調整フォーラム」が発足し、続いて12月5日アクトイーストフォーラムが発足しました。10月U-17ワールドサッカー大会の一部のゲームがアッサム州グワハティ市で開催され、11月第2回メガラヤ州都シロン桜祭り及び第1回インパール桜祭りが成功して注目されました。その後、この危険情報はグワハティ市、ミゾラム州とトリプラ州がレベル2から1に改定されています。

産業技術総合研究所バイオメデイカル研究部門は、5月インド工科大学グワハティ校と、DAILAB-Drug Discovery & Assets Innovation Lab. 共同研究に関するMOUを締結しました。インドでは、インド工科大学デリー校@ニューデリーとシッキム大学@ガントクに次ぐ、3校目の共同研究所がアッサム州に設立されました。

一方、地元日本語教室との連携にて、7月UP州都ラクノーにて、星野先生の協力で過去最大規模3千人の12年生（日本の高校3年生に相当）相手に、留学説明会@City Montessori Schoolを実施しました。8月にはインド中部MP州にて、名須川先生の協力で初の留学説明会を、私立大学Bhopal School of Social Scienceにて実施しました。

10月末JICA主催のAcademic Fair@IITHは、新設校舎セミナーホールで初の本格開催となり、大盛況でした。コンピューター科学科の学部生より、日本で人工知能の研究をしたいとの照会を初めて受けました。

11月30日南インドはケララ州コチンを訪問して、州立コチ理工大で留学説明会と島根県松江市・同市IT企業8社と一緒に就職説明会を同時に主催しました。この説明会は産官学オールJapanの新たなスタイルの成功モデルです。

### 2. 9月安倍首相ご夫妻グジャラート州アーメダバードご訪問：日印関係拡大強化

市内パレードが行われインド新幹線着工式が開催されました。この結果、インド全国で日印協力が一層知られるようになり、日本の存在感が一段と増した様実感しています。特にModi首相の歓迎振りが非常に印象的でありました。外務省HPやYOUTUBEでこのご訪問が公表されています。首脳会談が行われ発表された共同声明にて、日印協力が政治・経済・科学技術・学術・人材育成・人的交流分野等で更に一層の合意事項が拡大しましたが、中でも、今年は人的交流拡大を目指した日本政府観光局（JNTO）デリー事務所新設が注目されます。2020年の交流人口目

標を70万人（2016年の交流人口は、日→印21万人・印→日12万人 計33万人）と設定し、両国政府は目標達成のために協力して観光交流、特に若者の交流を促進することで合意しました。

両国関係の拡大で、日系企業のインド進出数は1369社（昨年1305社比5%増）、拠点数4838（昨年4590比6%増）と順調に拡大しています。リクルート会社「知るカフェ」が2016年海外1号店をインド工科大学ハイデラバード校に新設以来、2017年はボンベイ校、デリー校、インドール校そしてジョドプール校と5店舗に拡大進出しました。

外務省HP：[http://www.mofa.go.jp/mofaj/s\\_sa/sw/in/page4\\_003293.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/s_sa/sw/in/page4_003293.html)

日印共同声明：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000290053.pdf>

YOUTUBE：<https://www.youtube.com/watch?v=KPwZDIs2G3Y>

日本大使館関係HP：[http://www.in.emb-japan.go.jp/Japanese/2017\\_co\\_list\\_jp\\_pr.pdf](http://www.in.emb-japan.go.jp/Japanese/2017_co_list_jp_pr.pdf)

2017年5月現在のインド人留学生数は1, 236人と発表されました（JASSO）。この数字は前年同月比22%増となるもので順調に増加しています。JICA IITH Friendship Projectでは、2017年JICA奨学生（最大30人）23人の最高記録を樹立しています。2018年募集した結果、応募者62名（昨年38名比62%増）の日本留学希望者増加です。直近の留学生動向としては、2017年11月現在、東大99人（前年同月81人比22%増加）、立命館102人（内訳立命館大学27人+APU75人）（同80人比28%）と順調に増加しています。

JASSO 外国人留学生在籍調査結果

[http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2017/index.html](http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2017/index.html)

### 3. インド人のソフトパワー

改めてインド人パワーを実感致しました。

●インド人消費パワー：自動車新車販売台数が、2017年インドは世界第4位の市場に成長しました。1位中国2887万台（前年比3%増）、2位米国1723万台（同▲2%）、3位日本523万台（同5%増）、4位インド401万台（同10%増）、5位ドイツ385万台（同3%増）。鈴木自動車が子会社を通じてインド自動車市場の約4割を占めて成功しています。

因みに、インド中央統計局（CSO）は1月5日、2017年度（2017年4月～2018年3月）の実質GDP成長率（2011年基準）の事前推計値を6.5%増と発表しました。2016年度GDP成長率の7.1%増から低下し、直近4年間で最も低い水準となります。高額紙幣廃止や物品・サービス税（GST）導入が経済に混乱を与えている背景があり、年間では2017年度下半期の成長率は7%増を見込まれています。

●GOOGLE社傘下の人工知能基AlphaGoが、世界的な棋士に勝利して人工知能が世界的に知られる時代を迎えました。そのGoogle本社CEOインド人技師 Mr. Sundar Pichai（IIT Kharagpur卒、タミルナド州出身）の存在感が増しています。トヨタの競合先は今やGoogleとまで言われています。<https://ja.wikipedia.org/wiki/AlphaGo>

余談ですが、奥様Ms. Anjali PichaiはIITの同級生でラジャスタン州コタゴ出身です。インドでは珍しい恋愛結婚したカップルです。

●ミスワールド2017 世界大会でインド代表Miss Manushi Chhillar (20歳ハリアナ州出身(国立医科大学女子学生)が栄冠を獲得しました。

[https://en.wikipedia.org/wiki/Manushi\\_Chhillar](https://en.wikipedia.org/wiki/Manushi_Chhillar)

●国際裁判所判事に、インド人判事が国連で対抗馬英国推薦判事と戦い、再選されました。任期9年で判事は全体で15人です。3年毎に5人が国連総会の投票で選出される仕組みです。インド代表Dalveer Bhandari判事は2012年に選出されて、2期目の任期2021年～が確定しました。

[https://en.wikipedia.org/wiki/Dalveer\\_Bhandari](https://en.wikipedia.org/wiki/Dalveer_Bhandari)

●インド外務省在外インド人統計公表値によると、2017年12月現在印僑ネットワークは、世界208ヶ国3123万人となっています。主な内訳は以下の通りです。

日本：47位28,717人

(周辺国)・スリランカ：161万人・ネパール：60万人・ブータン：6万人・バングラデッシュ：1万人・モーリシャス：89万人・パキスタン：無し

★1位：米国446万人★2位：サウジアラビア：326万人★3位マレーシア：297万人★4位：UAE：280万人★5位：ミャンマー200万人★6位：英国182万人 ★南アフリカ：161万人★カナダ：100万人★シンガポール：65万人★豪州：49万6千人★タイ：20万人★ドイツ：17万人★フランス：11万人★中国：5万6千人★ロシア：3万人

インド外務省HP：[http://mea.gov.in/images/attach/NRIs-and-PIOs\\_1.pdf](http://mea.gov.in/images/attach/NRIs-and-PIOs_1.pdf)

●2017年4月24日、ニュージーランドのオークランドで、「世界マスターズ競技会(World Masters Games)」の100メートル走「100歳以上の部」が行われ、インド人女性、マン・コー(Man Kaur)さん101歳が見事ゴールインしました。優勝したのはタイムではなく、同部門に他の出場者がいなかったためという落ちでした。100歳以上で100メートル走ろうと思う人はなかなかいないものです。101歳で競技に参加しようというその生き様も素晴らしいですし、どれだけ時間がかかろうとも100メートルを走り切るというインド人御婆ちゃんパワー(精神力と体力)には感服し、頭が下がります。

#### **4. 日印学術交流の拡大**

STSフォーラム・第2回日印ワークショップ「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」が2月28日ニューデリーで開催されました。

JSTICORP3件(ICT分野)の立ち上がりと、DST・JSPS日印科学共同研究28件の採択が発表され、世界展開力強化事業(インド)2大学(北海道大学と広島大学)の採択決定と、合計6大学(東京大学、北陸先端大学、長岡技術科学大学、立命館大学と2大学)に拡大されたことが報告されました。IoT時代・第4次産業革命、或いは「AI」産業革命時代を迎えて、科学技術分野の日印共同研究や交流が拡大しています。

<http://www.jst.go.jp/pr/info/info1201/index.html>

<http://www.dst.gov.in/sites/default/files/IJCSP-2017%20Result%20for%20Website.pdf>

[http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/h29\\_kekka\\_saitaku.html](http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/h29_kekka_saitaku.html)

理系分野では、東大宇宙線研究所長梶田隆章教授（2015年ノーベル物理学賞受賞）がインドを2度ご訪問されて記念講演されました。（1月：第104回インド科学会議@SV University Tirupati AP州／12月：BM Birla Science Center@ Hyderabad）

一方文系分野ではインド政府より、東大大学院人文社会系研究科インド哲学仏教学丸井宏教授が「The Distinguished Indologist Award 2017」を受賞し、その表彰式が11月27日大統領府で開催されました。<http://pib.nic.in/newsite/PrintRelease.aspx?relid=173901>

大学間のインド関連シンポジウムは、例えば、以下の通り開催されて盛況を博しました

★IJEP Symposium “ Creating the Future through collaborative Education “ @東大本郷  
2017年6月9日

★Japan-India YNU Symposium 2017 “ Emerging Materials Systems for Green and Life Innovations@Yokohama Dec. 13-14 2017

## **5. 日印姉妹都市交流の拡大**

兵庫県・グジャラート州関係者の相互訪問、富山県関係者とAP州関係者の相互訪問、長崎県関係者のインド訪問（北東州、デリー、UP州）訪問、山陰地方（島根県）のケララ州との交流拡大。年が明けると1月17日福岡県とデリー準州との友好都市10周年記念行事として、JICAが加わり3社共催の大気汚染セミナーがデリーで開催されます。

例：兵庫県知事インドグジャラート州出張報告：

[https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g\\_kaiken20171023\\_06.pdf](https://web.pref.hyogo.lg.jp/governor/documents/g_kaiken20171023_06.pdf)

例：島根県松江市インドIT人材確保企業連携事業インド視察2017年11月

<http://www1.city.matsue.shimane.jp/shisei/kouhou/houdou/2017/11/1866.html>

例：富山県とAP州との交流

[http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1018/kj00017333-002-01.html](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1018/kj00017333-002-01.html)

例：長崎県十八銀行インド経済ミッションについて

[https://www.18bank.co.jp/news/topics/2017/2017\\_026.html](https://www.18bank.co.jp/news/topics/2017/2017_026.html)

例：2012年福岡県とデリー州MOU締結ニュース。この延長MOUが来年1月締結される運びです。

[http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf\\_283/11\\_kouryu.pdf](http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_283/11_kouryu.pdf)

## **6. 日印学生交流拡大：インド人高校生大学生の日本訪問**

JSTは「さくらサイエンス高校生プラン（SSHP）」（約260名）と「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究発表会」（10名）の事業で、インドの高校生・引率教師を招聘しています。2017年SSH発表会では前年に続いてインドの学校が優秀賞を獲得しました。SSP:

<https://ssp.jst.go.jp/> SSH: <https://ssh.jst.go.jp/>

10月6日－15日ハリヤナ州私立校Wisdom World Schoolの国際担当理事秦智先生が同校独自の訪

日交流旅行をされて、10人の中学生を引率し埼玉県下の小・中・高校・大学の生徒と交流されました。

JTBインディアは2016年からインド人中高大生の訪日旅行のビジネスモデルを確立。2017年は3ツアー・5校から生徒・引率教師を含め合計98名を日本に案内して、2016年1組6名からビジネスが拡大しています。

7月タミルナド州が州政府奨学金で州立大学生を日本に研修派遣しました。南部タミナルド州は、州政府予算でForeign Technical Training Program(FTTP)で州立大学の学生と教師100人をこれまで米国とロシアに派遣して来ましたが、今年から日本にも派遣を決定。7月12日～27日合計26人(教師2名と生徒24人)の一行が横浜国立大学を訪問。州立アンナ大学と付属の工科大学からコンピューター科学科の学生を筆頭に化学工学、繊維工学、生命工学、薬学、食物科学、セラミック工学と多分野の成績優秀者が選ばれて訪日(女子学生が大半を占めた)。8月4日アンナ大学での留学説明会の際に、横浜国大とアンナ大学参加学生にこの関係プレゼンが行われました。横浜国大はこれを契機にアンナ大学と交流協定書を締結。同州政府からは、今年の大学訪問が成功したとの判断から、来年から同州の高校生も日本に派遣したいとの相談がチェンナイ総領事館にありました。他方、日本からは奈良県私立西大和学園が修学旅行(高1海外探求プログラム)に今年もデリーに来てくれました。同校が訪問したデリーのDAV Public School, Shreshtha Vihar校の生徒も10月に訪日して同校との交流を更に深めました。

[http://www.nishiyamato.ed.jp/ny/school\\_life/international.html](http://www.nishiyamato.ed.jp/ny/school_life/international.html)

<http://www.nishiyamato.ed.jp/ny/news/pdf/20170914-2.pdf>

## **7. 日本によるインド人材育成・日本語教育**

日本式もの作り教育が日系企業：マルチ・スズキ・インディア、トヨタ・キルロスカ・モーター、ダイキン・エアコンディショニング、ヤマハ・インディア・モーター、タタ日立コンストラクションマシナリーの5社により学校(JIM)が設立されてスタートしました。また、Prime MeidenによりJEC(寄附講座)が開始されました。

経済産業省HP日本式ものづくり学校：

<http://www.meti.go.jp/press/2017/09/20170915004/20170915004.html>

新幹線事業の人材育成が本格化して来ました。2016年からスタートした国費での鉄道省派遣留学生受入に加えて、2017年からJICAによる鉄道省若手幹部職員訪日研修が開始されました。

IITマドラス校で日本語教室が正規の単位プログラムとして拡大しました。Asia to Japan社による日本への就職支援が提供されるようになり、日本語教室は2016年35名1クラスであったところ、2017年には35名2クラスが用意され、220名以上の応募者からの選抜クラスとなりました。この日本語教室が、IIT卒業生の日本での就職につながっています。

一方、日本語教育が両国政府間で合意され、2017年9月14日付け日印共同声明第38項に、今後5年間でインドの日本語教師1000人の育成が規定されて注目されます。インド新幹線事業の実施

機関となるインド高速鉄道公社より、職員の日本語教育について協力依頼を受けて、日本語教師が派遣されて日本語教育の特訓が開始されました。

大使館や国際交流基金には日本語教室の新規開設に関して、インド全国より相談が舞い込んでいます。日本の職業訓練専門学校にも人気が出て来て、留学生獲得の動きが活発化して来ました。

## **8. 日印友好交流年記念事業**

この事業の一つとして、歌舞伎をインドで紹介するイベント「日本・インド伝統芸能のタベ」が、8月20日在デリー日本大使館主催JNTO協力で開催されました。続いて、10月1日～25日、銀座歌舞伎座で芸術祭大歌舞伎・新作歌舞伎極付印度伝「マハーバーラタ戦記」（世界3大叙事詩のひとつに数えられるインド叙事詩マハーバーラタ）が初めて3幕で上演されました。

<http://www.kabuki-bitto.jp/news/4235>

[https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press\\_releases/pdf/20170905\\_2.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/pdf/20170905_2.pdf)

大阪外国語大学名誉教授、溝上富夫（現代インド諸語専攻）先生が10月から12月にかけて2度訪印され、「日印関係一歴史と展望」という題で、全国13都市、24回に亘る講演旅行を完遂されました。講演会場に依り、ヒンディー語、ベンガル語、パンジャビ語、そして日本語による講演は各地で盛況を博しました。

その他、邦楽、ジャズの演奏会、日本酒紹介、日本舞踊、オリンピックメダリストを呼んでの柔道、武道デモンストレーションなど、多彩な行事が開催されました。

以下在インド日本大使館HP大使館認定日印友好交流年記念事業一覧ご参照：

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/s\\_sa/sw/in/page25\\_000627.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/s_sa/sw/in/page25_000627.html)

## **9. インド人の米国離れ：インド人のアメリカンドリームに変化**

IITの先生から、米国から提供されて来た奨学金の数が減り留学生が減少しているとの実話をお聞きしました。最近のニューズウィーク日本版からこんなニュース関連報道もありました。

「アメリカを捨てるインド移民」Brain Drain Back to India

2017年10月23日（月）11時00分スザンヌ・サタライン

<http://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/10/post-8711.php>

インドの新聞9月17日付け一面報道：IITians' dollar dreams stalled by Trump wall

<https://timesofindia.indiatimes.com/india/trumps-visa-policy-stalls-iitians-dollar-dreams-focus-on-eu-japan-singapore/articleshow/60715938.cms>

米国新政権の就労VISA規制の影響で、今年9月就職が内定していたIITボンベイ校コンピューター科学科卒の人材が米国で仕事ができず、カナダなどへの配置換えの様相を示していると、一面報道されています。

## **10. 首都デリーの大気汚染激化**

今やデリーのPM2.5 レベルはリアルタイムで監視される事態になっています。

<http://aqicn.org/map/delhi/jp/>

一時、11月デリーで最悪1000以上を記録しました。これにはさすがのインド人もビックリしたようです。

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZ009683200Y6A111C1000000?channel=DF130120166020>

ちなみに、東京はせいぜい2桁レベルという違いです。

了